

本調査研究はモーターボート競走公益資金
による財団法人船舶振興会の補助金を受けて
実施したものです。

鹿児島県下の主要港湾における 国際航路開設のための調査研究

— 中間報告 —

平成 4 年 3 月

財団法人 九州海運振興センター

は し が き

本報告書は、当センターが「財団法人日本船舶振興会」の平成3年度から2カ年にわたる補助事業として実施した「鹿児島県下の主要港湾における国際航路開設のための調査研究」の平成3年度研究成果を中間報告の形でとりまとめたものであります。

鹿児島県は、九州南部に位置する地理的特性からアジア地域を中心として活発な交流を進め、アジア太平洋諸国との交流拠点となることが期待されております。

現在、わが国の海上貨物輸送においては、外資定期船貨物のコンテナ化率が80%を越えるなど、コンテナ貨物が主流となっており、また旅客輸送においては、大型クルーズ客船が次々と就航し、本格的なクルーズ時代を迎えようとしています。

こうした状況の中で、鹿児島県下の重要港湾である鹿児島港、志布志港、川内港が対アジア海上輸送網の拠点として発展して行くためには、総合的な外資コンテナターミナルとして、また大型クルーズ客船の寄港地としての諸条件を整備していくことが望まれます。

そこで、鹿児島県においてアジア地域との交流を促進し、地域経済の今後の発展に資するため、本年度は海上貨物輸送に焦点を当て、対アジアコンテナ輸送の現状、荷主および運輸関連業者からみた外資コンテナターミナルとしての条件を抽出し、県下主要港湾とその背後圏の現状に鑑み、各港湾の将来像を設定するとともに実現化に向けた課題・問題点を明らかにしました。

次年度は本年度の調査成果を踏まえ、旅客輸送に関してさらに新たな調査を実施し、県下の主要港湾を基点とした対アジア海上輸送網の形成について検討することとしております。この報告書が関係者の方々にいささかなりともご参考になれば幸いに存じます。

おわりになりましたが、本調査研究をとりまとめるにあたって終始ご指導、ご協力を頂きました鹿児島大学法文学部松本教授をはじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力頂きました関係の方々に、改めてお礼を申し上げます。

平成4年3月

財団法人 九州海運振興センター
会 長 邑 本 義 一

「鹿児島県下の主要港湾における国際航路開設のための調査研究」

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委 員 長	松 本 謙	鹿児島大学法文学部教授
委 員	藤 田 武彦	第四港湾建設局企画課長
〃	長谷川 伸一	鹿児島県企画部交通政策課長
〃	(榎野 龍二)	
〃	税 所 朗	鹿児島県土木部港湾課長
〃	平 川 賢一	鹿児島市企画部長
〃	岩 切 秀雄	川内市企画財政部長
〃	重 信 正勝	志布志町助役
〃	田 納 郁也	日本郵船(株)九州支店長
〃	船 越 寛三	三井物産(株)九州支社運輸部長
〃	有 馬 雄之助	鹿児島港運協会の会長
〃	崎 岡 洋右	日本貿易振興会鹿児島貿易情報センター所長
〃	(斎藤 格)	
〃	惟 村 正弘	九州運輸局企画部長
〃	(福本 秀爾)	
幹 事	西 川 勝	九州運輸局鹿児島海運支局長
〃	岡 崎 宏	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
事 務 局	船 本 眞二	九州運輸局企画部貨物流通企画課補佐官
〃	小 宮 範幸	九州運輸局企画部貨物流通企画課専門官
〃	杉 木 豊	(株)九州海運振興センター専務理事
集 計 解 析	内 田 健温	(株)三和総合研究所主任研究員
〃	長 澤 宏	(株)三和総合研究所副主任研究員
〃	原 田 昌彦	(株)三和総合研究所研究員
〃	神 山 英紀	(株)三和総合研究所研究員

※ 括弧内は前任者名

目 次

序 章	調査の概要	1
	1. 調査の背景と目的	
	2. 調査項目とその内容	
	3. 調査対象港湾の設定	
	4. 調査手法	
	5. 調査フロー	
第1章	対アジア定期船貨物におけるコンテナ化の実態	11
	1. 対アジア海上輸送の実態	
	2. コンテナ貨物輸送の実態	
第2章	コンテナ取扱9大港の実態とその周辺環境	41
	1. 9大港のコンテナ取扱貨物量	
	2. 我が国のコンテナ貨物流動実態	
	3. バンニング、デバンニング特性	
	4. 港湾施設と港湾周辺環境	
第3章	荷主企業の港湾利用意向の把握	51
	1. コンテナ化の現状	
	2. コンテナ化のメリット・デメリット	
	3. 鹿児島県下の主要三港湾の利用意向	
第4章	外資船社の定期航路開設意向	59
	1. コンテナ定期航路の実態	
	2. 定期船航路開設のための条件の抽出	
第5章	外資コンテナ海上輸送基地としての条件抽出	65
第6章	鹿児島県下の主要三港湾および港湾背後圏の現状	75
	1. 主要三港湾を取り巻く鹿児島県の社会・経済環境	
	2. 主要三港湾および港湾背後圏の現状	
	3. 主要港湾の現状のまとめと国際航路開設に向けた課題の抽出	

第7章	鹿児島県下の主要三港湾の将来像の設定	131
1.	鹿児島港の将来像の設定	
2.	志布志港の将来像の設定	
3.	川内港の将来像の設定	
4.	三港湾の役割分担と連携イメージ	
第8章	実現化に向けた今後の課題・問題点	143

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp